



# 恩田だより

令和6年9月  
横浜市立恩田小学校  
TEL (961) 7651  
FAX (961) 6014



## 暑くて暑い夏

校長 山根 淳一

初秋の候、地域・保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年も、本当に暑い夏でした。連日、熱中症警戒アラートが発令され、体温を上回る気温が何日も続きました。体調を崩された方も、少なくなかったのではないのでしょうか。

そんな外に出ることも、ついためらってしまうような暑い夏休みでしたが、元気や勇気をもらったのは、パリで活躍するアスリートたちの熱い姿でした。オリンピック・パリ大会では、そんなアスリートの方々から私たちに、多くのメッセージが送られてきました。その中で特に私の心に残っているものをいくつか紹介します。

### 「最高に楽しい6分間でした」

男子レスリングで金メダルを獲得した選手が語ってくれたこの言葉を聞いて、思い出すのは、かつて女子マラソンでやはり金メダルを獲得した選手の言葉です。その方も「すごく楽しい42キロでした」とおっしゃっておられました。私たちには想像することもできないくらい、人の何倍も何十倍もの努力を日々続けてこられた方だからこそ、オリンピックの場が楽しかったと言えるのだらうなと思いました。

### 「最後まで諦めずに、でも人の失敗は祈りたくない」

これは、スケートボードに出場した選手の言葉です。この方は前回の東京大会では金メダルを取り、周りからは連覇を期待されながらも、果たすことができませんでした。他の選手の結果を待つ間に、その方はこのようにおっしゃったのです。あくまでも勝負する相手は自分自身であり、技が成功するのも、失敗するのもすべては自分次第なのだという潔さを感じる言葉でした。また他の選手をリスペクトする気持ちが、アスリートらしく、心を打たれました。

### 「神様はいじわるしたり、助けてくれたり…でも最後は自分の実力」

この言葉を残したのは卓球女子の選手です。準決勝の直前にラケットを握る左手を痛め、試合にはテーピングを施し、痛み止めの注射をして臨んだそうです。勝利を手にしたとき、「よく頑張った、左手」と自らを労ったそうです。先ほどのスケートボードの選手のように、この選手も、勝負の結果は、良いときも、そうでないときもすべては自分の実力であると、自らを奮い立たせるようにして語る姿が素敵でした。こういう姿こそが格好いいというのだなと思いました。

### 「がんばれ」「頼んだ」「ごめん」

このような言葉を試合中、幾度となく交わっていたのは、バドミントン混合ダブルスに出場した二人の選手です。試合中もお互いを思いやる言葉をたくさん交わしていました。この二人がペアを組んだのは、お互いがまだ中学生だったときだそうです。以来13年という長い期間、ペアとして共に戦うことができたのは、お互いが、相手を思いやる気持ちをしっかりともっていたからなのだろうと思います。試合を終えて、出会えてよかったとペアの相手へ感謝の気持ちを述べている姿を見て、私も胸が熱くなりました。

大変な努力を積み重ねて夢を叶えたアスリートの言葉には、その一言一言に重みがあります。引き続き8月28日から始まったパラリンピック・パリ大会に出場するアスリートの方々のごこともしっかりと応援していきたいと思います。